

建築基礎工学第二部
Engineering of Building Foundation II

教員名	高幣 喜文 (たかへい よしふみ) (非常勤講師)								
教員連絡先 (研究室所在地・TEL)	吹田キャンパス S1棟722室 電話: 06-6879-7634								
E-MAIL アドレス									
履修対象	建築工学コース (4年次)								
単位	2	セメスター				7			
受講条件	建築基礎工学第1部を修得していることが望ましい。								
授業の教育目的・目標 他科目との関連	建築基礎工法の発展過程、基礎の設計・施工に際して考慮しておかなければならない各種の現実的な課題について解説し、理解を深めることを目指す。								
学習・教育目標	A	B	C	D	E	F	G	H	
	○			○	◎				
授業計画・概要	テーマ	概要						学習・教育目標	
	建築基礎工法の発展過程 (3回)	建築基礎工法は多くの苦い経験を基にして今日の最新工法に到っている。建築基礎工法の発展の歴史をケースヒストリーを交えながら説明するとともに、各種の最新の基礎工法を紹介し今後の課題について説明する。(高度3回)						A D	
	建築基礎関連紛争の現状と課題 (3回)	建築技術者は各種の法令を遵守して建物を建設しなければならない。建築基礎を設計・施工する上で関係する各種の法令を解説するとともに、その法令に違反することによって生じた各種のトラブル事例を紹介し、建築技術者として実社会で活躍する際の注意点を説明する。(高度3回)						A E	
	地盤の動的問題 (3回)	地盤上に設置された構造物は、地盤を通じて地震や機会振動、交通振動等の各種の振動の影響を受ける。構造物周辺の地盤を介して伝達される振動の影響の評価方法と基礎の設計方法について説明する。(高度3回)						A E	
	地盤の環境問題 (3回)	地球環境問題が重要な課題になっているが、地盤に関しても各地で地盤汚染や地下水汚染が問題になっている。地盤に関する環境問題について最新の事例を紹介するとともに、地盤汚染や地下水汚染対策技術について説明する。(高度3回)						A D	
	学期末試験 (1回)								
教科書	鳥海勲著「地盤工学」森北出版								
参考図書・文献等	日本建築学会編「建築基礎構造設計指針」								
成績評価方法・評価基準	A, D, Eについて学期末試験で評価する (80%)。 適宜レポートの提出を求めることがある (20%)。								
オフィスアワー	各回の講義終了後に適宜設ける。								
コメント	建築基礎と地盤の応用問題について解説する。								